

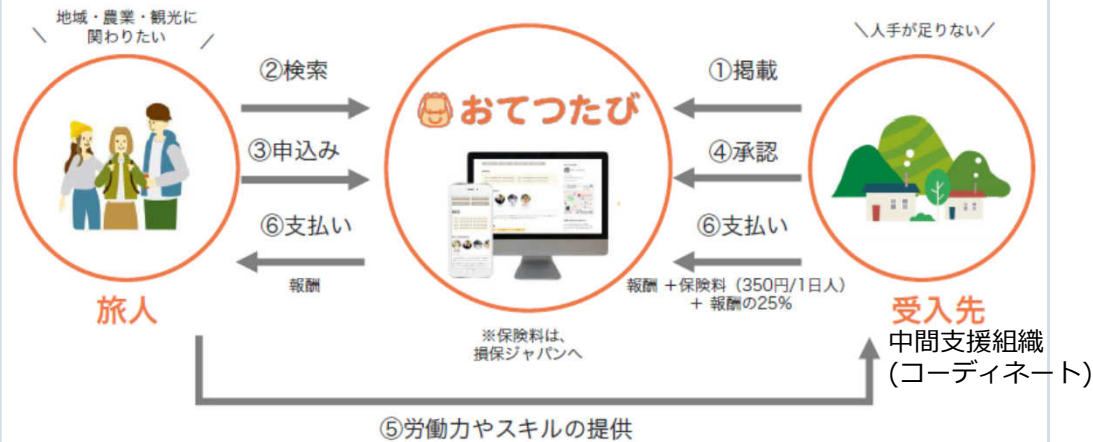
# 参考資料 三原市関係人口創出支援業務における課題と対策について

| <p>①【仕組みづくり】<br/>地域ニーズに応じたイベント等の実施</p>  | <p>②【場づくり】<br/>地域や関係人口との接点の提供</p>  | <p>③【コミュニティづくり】<br/>中間支援組織を軸とした運営体制の構築</p>   |
|---|--|--|
|   |  |  |
| <p>【R4年度 事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①都市と地域のニーズ調査から関わりしろとなるテーマや、つながる仕掛けづくり</li> <li>②オンラインセミナーの開催、マッチングの企画・実施</li> <li>③都市のニーズに応じたマッチングの効果検証</li> </ul> <p>連携事業者 ターゲット</p> <p>(株)おてつたび：地方に興味ある若い層</p> <p>東邦レオ(株)：第2の故郷を求める都市住民</p> <p>JOINS(株)：働き方の自由度が高い会社員</p>                         | <p>【R4年度 事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①デジタル接点の強化<br/>関係人口専用LINE(ミハライズ)の効果的活用</li> <li>②都市と地域(地域住民相互を含む)の接点が生まれる拠点づくりの構築</li> <li>③デジタルからリアル接点に誘導する取組み</li> </ul>   | <p>【R4年度 事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①ミハラポートセッションの運営(関係案内人の発掘)</li> <li>②新たなコミュニティの構築<br/>地域・都市住民, 関係案内人をつなぐコミュニティの構築</li> <li>③都市と地域を結び付けるため, 都市側に拠点を持つ関係案内人と連携・協働する手法の構築</li> </ul>                                     |
| <p>【課題・対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶都市ニーズと地域の関わりしろを分析し, 新たなマッチング分野の企画, 実施が必要</li> <li>▶地域が関係人口による効果(地域活性化や課題の解決)について理解を深める機会が必要</li> <li>▶受け入れ可能な地域や企業, 関係団体の掘り起こしが必要</li> <li>▶コロナ禍による移動制限を受ける中, オンラインを活用したマッチング向上のための取組が必要</li> <li>▶宿泊や2次交通の課題から, 日帰り可能な関係人口にターゲットを設定する工夫も必要</li> </ul> | <p>【課題・対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶専用LINE等デジタルを効果的に活用し, 関係人口を増やすための情報発信が必要</li> <li>▶専用LINEの友達登録を増やすため, ターゲット設定や戦略的な周知活動が必要</li> <li>▶中間支援組織としての拠点を見える化し, 相談窓口機能としての拠点づくりが必要</li> <li>▶デジタルでつながった関係人口を深化させ, リアルな接点に移行するための取組が必要</li> </ul> | <p>【課題・対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶地域人材が関係性を深め, コミュニティをつくることで活動の幅を広げるとともに, 新たな企画・アイデアの集積を図る場が必要</li> <li>▶地域人材同士や市内外・県外の人との交流により関係性を高め, 人材の受入体制を充実させることが必要</li> <li>▶都市部における関係案内人を発掘し, 都市側と地域側の連携・協働をすすめる仕組みが必要</li> </ul> |

## おてつたび (事業概要)

### 事業モデル

人手不足で困っている農家と、地域に興味がある若者とをマッチングさせるプラットフォームを提供



### マッチングにおける課題

- ①三原市は小規模農家が圧倒的多数
  - ・農家の95%以上が、5ha以下の小規模農家
  - ・単体の農家では必要となる作業量が小さい
- ②受入農家の負担
  - ・宿泊場所や昼食の手配は農家への負担が大きい
  - ・労働力以外の価値に対する農家側の理解が必要
- ③宿泊場所の確保
  - ・小規模農家にとって宿泊場所の提供は困難
  - ・近隣に宿泊施設がない

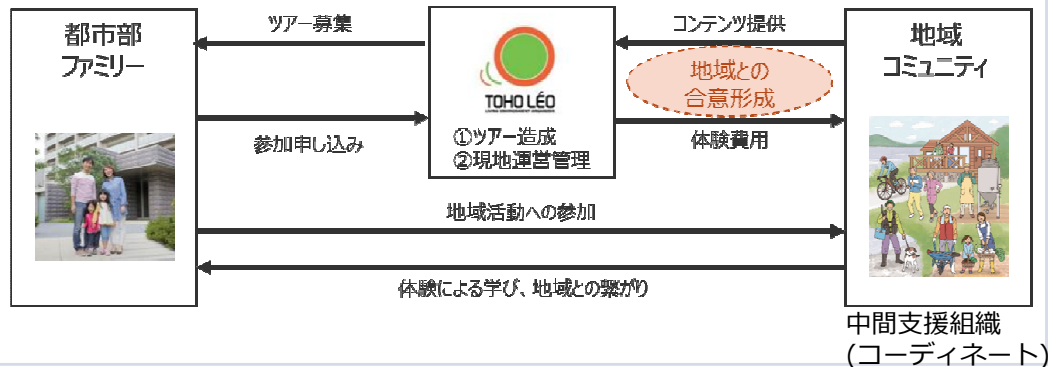
### マッチング実践におけるポイント

- 事業の意義や得られる効果への理解を深めるための農家との丁寧なコミュニケーション
- JAと連携し、小規模農家の取りまとめを行い、参加者が滞在できる作業量を確保
- 受入箇所での見学会等の開催による、取り組みの効果や参加者の有用性を周辺農家に周知
- 地域との交流企画の実施による、参加者の労働力以外の魅力を理解
- 周辺の宿泊事業者との連携による、参加者が負担可能な価格での宿泊場所の提供
- 地域内での交通手段の確保 (自転車など)
- 事業推進に向けた移動・宿泊費用の補助

## 東邦レオ (事業概要)

### 事業モデル

都市部マンション住民と地域コミュニティをマッチングし、第2のふるさとづくりツアーをきっかけに地域との継続的な関わりしるを創出



### マッチングにおける課題

- ①地域コミュニティ側の負担
  - ・企画の詰込みや過度なおもてなしは、受入地域側に金銭面や労働面で負担となる
- ②受入地域の理解醸成
  - ・観光・体験と異なり、第2のふるさととして継続的に参加者と交流を持つ取り組みとの理解が必要
  - ・ツアー実施後の展開イメージは関係者間で共有する必要がある（マンションでのマルシェなど）
- ③二次交通・滞在拠点の確保
  - ・現地までのアクセス手段と滞在拠点の確保は必要
  - ・地域の施設や他の事業者との連携も必要

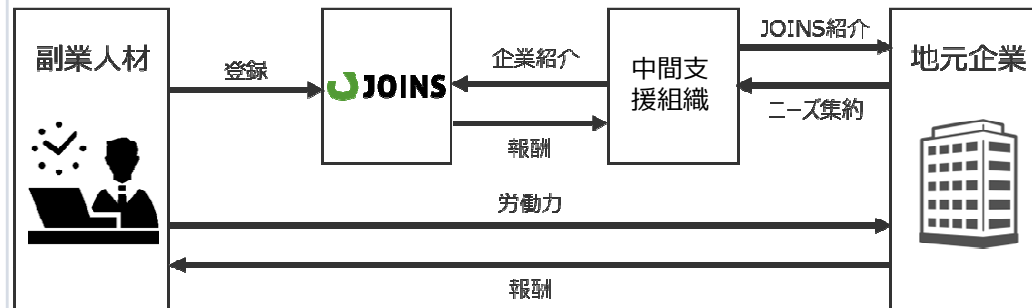
### マッチング実践におけるポイント

- 取り組み趣旨やツアー実施後の展開の理解を深めるための地域との密接なコミュニケーション
- マンション住民向けのニーズに合わせた地域コンテンツのディレクション
- 東邦レオと中間支援組織との連携による、ツアーの企画立案・地域内調整
- 他の事業者との連携による現地までの二次交通と滞在拠点の確保
- ツアー参加者と受入地域側との事前のコミュニケーション機会の創出（オンラインミーティング等）

## JOINS (事業概要)

### 事業モデル

人材不足に課題を持つ地域企業に特化した副業・兼業プロ人材のマッチングプラットフォームを提供



### マッチングにおける課題

- ① 地元企業の副業人材への理解
  - ・ 副業人材の有用性の理解や情報漏洩など懸念材料の払拭が導入に際し、理解してもらう必要がある
- ② 副業人材と地域との接点が希薄
  - ・ オンライン副業のため、直接地域に訪れる機会が少ない
  - ・ 副業人材はJOINSと受入先企業とのみ接点があり、中間支援組織との接点がない
- ③ 副業人材の地域に対するニーズが不明
  - ・ 業務内容や自身のスキルを基準に選定している副業人材が地域とどの程度関わりたいかは不明瞭

### マッチング実践におけるポイント

#### ○ 導入支援

- 成功事例や地域内での導入事例を紹介するセミナーを開催し、地元企業への副業人材への理解を高める
- デジタル分野や経営効率化など地元企業のニーズを中間支援組織が把握し、JOINSと連携

#### ○ 副業人材の（訪問型）関係人口化

- 中間支援組織と副業人材、受入先企業の3者間での接点を作り、連携できる関係を構築
- 受入先企業との連携による、地域交流プログラムの検討
- 副業人材と商工会議所・商工会とのマッチングを中間支援組織が支援



# ミハラポートセッション

## ミハラポートセッション

### ■目的

- ・三原市で活動する「みはらびと」をゲストスピーカーとして招き、地域の魅力を発信することで「三原市のコミュニティ拠点」となることを目指す
- ・新たな企画・アイデアの集積と、登壇者同士や市内外・県外の人との交流による関係性を高め、三原市で活躍する人・地域・団体の活動を後押し

### ■開催概要（令和3年度）

期 間：2022年10月23日～12月25日までの土曜日（全7回）

時 間：14時～15時

場 所：キオラスクエア芝生広場、JR三原駅コンコース内  
道の駅みはら神明の里

情報発信：専用フェイスブックページでのライブ配信  
地域情報サイト「ミハライズ」にてアーカイブ動画掲載

## 実践の振り返り

### ■プログラムへの評価

- ・登壇者アンケートは、話して考えが整理された等、非常に評価が高い
- ・リピーターの参加者がいたり、動画の閲覧回数も一定数を記録するなど関心の高さは伺える

### ■継続の必要性

- ・コミュニティ拠点として人が集う場所として認識されるようになるまでは、一定の期間が必要
- ・参加者同士の繋がりやそこから生まれるビジネスへと波及させていくためにも場の存在は必要



